

配信日	NO	財団名	事業名	助成対象	応募資格	締切			助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
						学内	財団	備考				
9/22	M23305	日本科学協会	2024年度 笹川科学研究 助成 「学術研究部 門」	<p>「学術研究部門」特にこれまで活躍の機会があまり与えられなかった、大学院生、外国人留学生、女性研究者、研究環境が十分でない研究者が行う、優れているが他からの助成が受け難い研究を支援する。</p> <p>対象となる研究：人文・社会科学および自然科学（医学を除く）の研究。中でも、「海洋学および海洋関連科学」ならびに「船舶および船舶関連科学」等『海に関係する研究』は重点テーマとして支援する。</p> <p>● 申請区分については、海に関係する研究も申請区分を選択する事。</p> <p>＜人文・社会系＞ ※『海に関係する研究』：海洋政策(法律・経済・政治など)、海に関係する歴史・民俗学・災害・教育などを含む ＜複合系＞ ※『海に関係する研究』：海洋資源(新規物質・エネルギー・鉱物など)、海に関係する地球環境・汚染などを含む ※『海に関係する研究』は、海洋関連研究選考委員会で審査します</p>	<p>2024年4月1日現在、35歳以下で、大学院生あるいは所属機関等で非常勤雇用または任期付き雇用研究者として研究活動に従事する者。但し『海に関係する研究』は重点テーマであるため、雇用形態は問わない。</p> <p>1.申請者は、研究完了まで日本所在の大学、研究機関等に籍を置き、日本国内に居住している者に限定。</p> <p>2.当該研究についての推薦者が必要。</p> <p>3.推薦者は、日本に在住する当該研究の実質的指導者、採択が決定した場合は、当該研究の内容と経費の確認者になることが条件。</p> <p>4.他の助成団体等から助成を受ける研究と実質的に同じ内容または重複する場合は対象外。</p> <p>5.2024年度日本学術振興会特別研究員は対象外。</p> <p>6.1個人1研究計画に限定。</p> <p>【個人管理】</p>	10/2	10/16	ウェブ申請 ～23:59	～150万円/件	不明	2024/4/1/～ 2025/2/10	https://www.iss.or.jp/ikusei/sasakawa/
9/22	M23305	日本科学協会	2024年度 笹川科学研究 助成 「実践研究部 門」	<p>「実践研究部門」</p> <p>急速な社会構造の変化に伴って生じる様々な問題の解決に向けた、実践を伴う研究を支援する。その中でも、実践研究に関する『海に関係する研究』は重点テーマとして支援する。</p> <p>A 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究：学校、NPO等に所属している方が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究を求める。</p> <p>例) ・学校教育現場における新たな学習指導方法の研究 ・不登校・引きこもりの自立支援のための研究 ・地域のまちづくりのための研究 ・よりよい環境や福祉の実現のための研究 など</p> <p>B 学芸員・司書等が行う調査・研究：学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資する調査・研究を求める。また、所属機関とは別の機関や、大学、自治体等の異分野の機関・施設と連携した研究も歓迎する。</p> <p>例) ・博物館・図書館の活性化に資する研究 ・博物館資料・図書館資料に関する基礎的または応用技術的な研究 ・博物館・図書館現場における新たな学習教材・教育プログラムの開発・研究 ・博物館・図書館の利用者支援に関する研究 ・地域特性や地域資源を活用しながら住民との協働により社会貢献が果たせる研究 など</p> <p>※研究は、動機と目的が明確であり、実践の場を通して広くその分野に役立つものを求める。</p>	<p>教員、学芸員、司書、カウンセラー、指導員、市民活動・地域活動等の専門的立場にある方で、年齢不問。 (非常勤や嘱託等の場合雇用期間内の調査・研究終了が条件)</p> <p>・申請者は、当該研究について推薦者が必要。</p> <p>・推薦者は、当該研究の実践の場に応じ以下とする。</p> <p>①施設(博物館・学校等)：代表者(館長、園長、校長等)</p> <p>②施設以外(地域・自然環境等)：実践の場の管理者、またはその管理者(市区町村長等)から許可や委託を受け活動をしている組織(NPO等)の代表者</p> <p>※代表者本人が申請する場合は申請者と推薦者が同一で、この場合、推薦は不要。</p> <p>・推薦者は、助成金の交付が決定された場合、当該研究の内容と経費の確認者となる事が条件。</p> <p>・他の助成団体等から助成を受ける研究と実質的に同じ内容または重複する場合は対象外。</p> <p>・1個人1研究計画に限定。等</p> <p>【個人管理】</p>	10/2	10/16	ウェブ申請 ～23:59	～50万円/件	不明	2024/4/1/～ 2025/2/10	https://www.iss.or.jp/ikusei/sasakawa/
9/22	M23308	全国健康保険協会	「外部有識者を活用した委託研究」	<p>研究課題</p> <p>① 協会指定のテーマ</p> <p>(i) 医療費総額の高い疾病や一人当たり医療費が高い疾病に対する医療資源投入量(診療期間や診療行為など)の地域差に係る分析</p> <p>(ii) 特定健診の保有リスク(血圧/血糖/脂質)に関する服薬者の服薬開始時点における保有リスクの状態(血圧値/血糖値/脂質値)の地域差に係る分析</p> <p>(iii) 特定保健指導対象者の性年齢階級・保有リスク・生活習慣・業態等と、保健指導の成果(腹囲2cm減かつ体重2Kg減)との関係及びその地域差に係る分析</p> <p>(iv) 地域(自治体)や職域(業界団体)が実施した全国のポピュレーションアプローチに係る事業内容(健康課題、対象、介入手法等)の情報収集と当該事業の協会加入者の健康度(健診結果等)への効果分析</p> <p>② 医療費分析分野及び保健事業における自由提案型研究</p>	<p>1. 全国健康保険協会会計細則第30条/第31条の規定に該当しない事</p> <p>2. 次の事項に該当する者は、企画競争に参加させないことがある。</p> <p>①資格審査申請書又は添付書類に虚偽の事実を記載した者。</p> <p>②経営の状況又は信用度が極度に悪化している者。</p> <p>3. 当該案件を確実に履行できると認められる者であること。</p> <p>4. 全国健康保険協会から業務等に関し競争参加資格停止措置を受けている期間中でないこと。等</p> <p>【機関管理】</p>	-	10/31	12:00までに 郵送必着 または 直接持参	1,500万円/件 (税込)	原則3件 (上限5件)	2024/4～ 2027/3(最 長)	https://www.kyoukaikenpo.or.jp/
9/22	M23309	住友財団	2023年度 アジア諸国にお ける日本関連 研究助成	<p>***English application will be also accepted**</p> <p>主として東アジア・東南アジア諸国を対象とし、各国の研究者による日本に関連する研究(日本研究、対象に日本を含む比較研究・国際関係研究・交流史研究等)を助成する。</p> <p>対象：主に、人文・社会科学分野の研究で、日本に何らかの点で関連する事柄を対象とするもの</p> <p>研究の形態：個人研究または共同研究</p> <p>※ 申請する研究内容、申請者に対する学識経験者の「推薦書」提出のこと</p> <p>1. Eligible projects: Any research project, mainly in the field of social sciences or humanities that is related to Japan</p> <p>2. Outline of the Grant: budget Max JPY2.0million (average JPY0.2～1.2mil) x around 70 projects Grant period: one year (Apr/2024～Mar/2025)</p> <p>3. Documents required: other than the application, Letter of Recommendation from a person with academic background</p>	<p>(1) 日本以外のアジア諸国に国籍を有すること</p> <p>(2) 助成期間内に日本に居住しないこと(留学・派遣・招聘等で助成期間内に6ヶ月以上滞日する予定がある場合は応募をご遠慮下さい。)</p> <p>(3) 自ら研究を実施すること</p> <p>【個人管理】</p>	10/17	10/31	ウェブ申請 ～17:00(JST) 厳守	～200万円/件	70件程度	2024/4～202 5/3 1年間	http://www.sumitomo.or.jp/html/jare/japanrela.html
9/22	M23310	三島海雲記念財団	2023年度 学術活動支援	<p>本事業は、大学、研究機関、学会などが主催する特定テーマの比較的小規模で国際的なセミナー、シンポジウム、講演会、研修会などの学術活動に対して支援する</p> <p>1:自然科学部門：食の科学に関する学術研究「食の科学」に関する学術とは、食品素材、製造・加工・調理、発酵・微生物利用、栄養・嗜好・生理機能、食の安全、疾病予防などに係る研究</p> <p>2:人文科学部門：アジア地域を対象とし、哲学、史学、文学を中心とする人文社会科学分野における学術研究(但し日本を中心とする研究は除く)</p> <p>※国内で開催される海外からの参加者を含む国際的な上記学術活動で、クローズドな活動でなく外部/新たな参加者を認めるもの。 なお、学術集会のうち定例的な年会や季会、および、大きな大会の一部として開催される分科会や地方支部の学術集会は原則として対象外。 また、同一の学術活動への助成は年度内に1回のみとする</p>	<p>学術活動の責任者又は主催者</p> <p>【機関管理・寄附扱い】</p>	-	10/31	メール申請	50万円/件	4-5件程度?	(対象活動) 2024年1月以降に開催	https://www.mishima-kaibun.or.jp/support/
9/22	M23311	日本経済研究センター	2023年度 日本経済研究センター 研究奨励金	<p>対象：経済及びそれに関連する学問分野(特に社会学)の研究。現在の重要な経済問題や政策に関する理論的・実証的研究は優先的に選考・採択する。</p> <p>* 申請者証明書および、2名以上推薦状の提出必要。</p>	<p>2名以上の推薦を受けられる個人(大学・研究期間、個人等からの推薦いずれも可)</p> <p>【個人管理】</p>	10/16	10/31	メール及び 郵送 必着	～100万円/件	10件前後	1年	https://www.icer.or.jp/

配信日	NO	財団名	事業名	助成対象	応募資格	締切			助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
						学内	財団	備考				
9/22	M23319	食生活研究会	2024年度研究助成金	健康で豊かな食生活等の向上に貢献するとの理念のもとに、食料、食生活及び食文化に関する調査研究、交流、研究者及び研究機関への支援等を通じて社会公共の利益に寄与することを目的とし、研究費を助成する。 【助成対象】 1.自然科学系（省略） 2.人文社会科学系：食料・農業政策、食品流通・市場動向・消費動向の課題、消費者の食認識等に関する研究 《研究テーマ例》・我が国の食料政策が食生活に及ぼした影響について ・なぜ食品の風評被害はなくなるのか―心理的メカニズムの解明 ・コロナ禍における消費者の外食行動における実証研究 ・効率的なフードシステムの構築、連携体制について ・地球温暖化に対応した食料生産システム 3.文理融合系：自然科学系、人文社会科学系の両領域に関する研究 《研究テーマ例》・ポストコロナ時代の食料・農業政策、食料需給問題 ・現代人が陥りやすいフードファディズムについて ・食品表示、食品安全と消費者コミュニケーションについて ・「食べるマインドフルネス」の国際比較と食事摂取状況との関連 ・世界の栄養・食糧安全保障と食料需給における課題 ※ 自然科学系、人文社会科学系、文理融合系の研究助成対象は上記の内容とするが、それぞれの領域において「持続可能な開発目標（SDGs）」に関連する「持続可能な食資源、食関連素材、フードシステム構築等」に関連する研究テーマも助成対象とする。	特に指定なし 【個人管理】	-	10/31	ウェブ申請(必着)	100万円/件	15件前後 (人文系・文理融合系合わせて6-7件)	1年	https://www.z-ssk.org/index.html
9/22	M23324	大林財団	2023年度研究助成	都市に関する独創的な研究について助成する。 助成対象分野： (ア) 都市計画、都市景観 (イ) 都市環境工学 (ウ) 都市交通システム、エネルギー計画 (エ) 建築技術 (オ) 都市建築史、都市と文化 (カ) 都市政策、都市経済	大学、その他の研究機関に属し、主に研究活動に従事している者 (学部生・大学院生、高専本科生・専攻科生等は対象外) ※ 研究期間中に助成対象から外れた場合は、助成金の返還を求め場合があります 【個人管理・機関管理・間接費免除】	-	10/31	Web 申請	~150万円/件	60件	2024/4/1~1年間	https://www.obayashifoundation.org/
9/22	M23324	大林財団	2023年度国際交流助成	都市に関する学術的な国際会議、共同研究のため来日する海外在住研究者、並びに同様の目的で渡航するわが国研究者に旅費を助成する (ア) 研究者招聘 都市に関する学術的な国際会議（研究会、シンポジウム、セミナー、学会等を含む）又は、都市に関する共同研究で来日する研究者 (イ) 研究者派遣 都市に関する学術的な国際会議（研究会、シンポジウム、セミナー、学会等を含む）又は、都市に関する共同研究のため渡航する研究者	(ア) 研究者招聘：大学その他の研究機関に在職し、主たる仕事の研究職として研究活動に従事している外国人及び外国に在住する研究者 なお、会議主催者又は共同研究の日本の代表者からの申請でなくとも、研究者本人からの申請も可 (イ) 研究者派遣：大学その他の研究機関に在職し、主たる仕事の研究職として研究活動に従事するわが国研究者 【個人管理・機関管理・間接費免除】	-	10/31	Web 申請	~90万円/件	5件	2024/4/1~2025/3/31までに実施されるもの	https://www.obayashifoundation.org/
9/22	M23324	大林財団	2023年度国際会議助成	わが国で開催される都市に関する学術的な国際会議（研究会、シンポジウム、セミナー、学会等を含む）の開催に要する経費の助成を行う。 * 2024年4月1日から2年以内に開催されるもの	大学、その他の研究機関に属し、主に研究活動に従事している者 (学部生・大学院生、高専本科生・専攻科生等は対象外) 【個人管理・機関管理・間接費免除】	-	10/31	Web 申請	~150万円/件	5件	2024/4/1~2年以内	https://www.obayashifoundation.org/
9/22	M23329	第一生命財団	2023年度研究助成(1)一般研究(2)奨励研究	住生活の改善向上をはかるための研究について助成し、併せて若手研究者の育成および学術研究の発展に寄与することを目的とする。 助成は「一般研究」、および若手研究者向けの「奨励研究」の2種類に分けて実施する。 わが国の住宅、都市、土地に関し、経済、社会、法律、歴史、制度、計画およびこれらの複合的視点から、住生活の改善向上をはかるための研究を助成の対象とする。 (研究の対象を「外国」とすることはかまいませんが、主題はあくまでも「わが国の住生活の改善向上をはかるための研究」とする事)	【一般研究】大学、その他の研究機関に専任または有期専任の身分で常勤にて在籍し、研究活動に従事している研究者。 【奨励研究】上記に同じ。ただし、応募書類提出期限日(2023年10月31日)に40歳未満の若手研究者対象。 <その他基準> (一般・奨励とも) 1.申請書提出時および研究実施年度中は上記資格が予定されること 2.日本に在住する研究者とし、大学院生、専攻科生などは対象外 3.共同研究の場合は、代表研究者が対象者 4.本助成の既受託者は、原則としてその後2年間は対象外 【個人管理】	-	10/31	メール申請 ~17:00厳守	「一般研究」 ~150万円/件 「奨励研究」 ~80万円以内	合計10件程度	2024/4/1~2025/3/31	http://group.dai-ichi-life.co.jp/dai-ichi-life-foundation/
9/22	M23332	JR西日本あんしん社会財団	2024年度研究助成	●助成対象研究：事故、災害や不測の事態に対する備え（災害被害低減、心肺蘇生法）や事故の防止に関する研究。または、事故、災害の不測の事態が起こった後の心のケア（グループケア等）や身体的ケア（リハビリテーション等）並びに事故、災害等の風化防止に関する研究。 ※もっぱら事故、災害に関する研究のみならず、それらに関連する研究も助成対象となる ※ここでいう事故とは、交通事故(鉄道事故、道路交通事故(自動車・自転車・歩行者事故)等)のみならず、身体に関わる事故全般を対象とする 次の要件を助成のうえ、総合的に判断し、選考する。 ア) 当財団が助成を行うのに相応しい研究 イ) 社会的な要請が強い研究 ウ) 独創的、先駆的な研究 エ) 研究の遂行能力 オ) 経費の合理的な使用 ※ 個別相談会(2023/10/1 13:00-17:00) @グランフロント大阪 (要予約) オンライン相談会(2023/10/15, 16) zoom(要予約)	●応募資格： 近畿2府4県にある大学、大学院（附属機関含む）、大学共同利用機関、高等専門学校、公的研究機関、医療機関の何れかに所属している研究者で、当該機関で実質的に研究できる方（国籍等は不問）。 ※学生・大学院生は1年助成のみ応募可・但し指導教員による確認書提出要 【機関管理の場合は間接経費可・個人管理の場合は間接経費不可】	-	11/15	ウェブ申請	~150万円/年/件 (最大300万円/2年/件)	10-20件程度	2024/4/1~1年もしくは2年	https://www.jrw-relief-f.or.jp/
9/22	M23335	パブリックヘルスリサーチセンター	2024年度パブリックヘルス科学研究助成金	1 ストレス科学分野:「ストレスマネジメント」 (キーワード: ダイバーシティ/コーピング/ストレスチェック/孤立・孤独/オンラインコミュニケーション) 2.生命医科学分野:「環境と健康」 (キーワード: 予防医療/環境応答/ライフコースアプローチ/健康診断)	以下の条件を全て満たす者 ・ストレス科学研究、または生命医科学研究を行っている者 ・国内の非営利の研究機関に在籍している研究者、または博士後期課程(それに準ずる課程も含む)に在籍している学生 ・生年月日が1984年4月2日以降である者 ・所属する部署の長等の推薦を受けている者(※推薦書公印要) ・2023年度本助成金の助成対象者でない者 【個人管理】	11/1	11/15	メール申請	・ストレス科学分野: ~50万円/件 ・生命医科学分野: ~100万円/件	・ストレス科学分野:最大6件 ・生命医科学分野:最大3件	2024/4~2025/3	https://www.phrf.jp/

配信日	NO	財団名	事業名	助成対象	応募資格	締切			助成金額	助成件数	助成期間	ホームページ
						学内	財団	備考				
9/22	M23333	トヨタ財団	<特定課題> 「先端技術と共創する新たな人間社会」	<p><先端的な科学技術によってもたらされる社会的諸課題にかかわる分野></p> <p>Society 5.0の実現が模索されるなか、新型コロナウイルス感染症拡大への対応もあり、デジタル技術の活用が急速に進捗し日常生活に浸透してきています。このようなデジタルトランスフォーメーション(DX)の加速を的確に捉え、たとえば法整備の遅れや倫理的・制度的問題、新しいコミュニケーションの形、学校・教育現場での積極的対応、少子高齢化が急激に進む日本社会の将来に向けた多様な活用のあり方など、先端的なデジタル技術をとりまく様々な課題に対応するプロジェクトを募集する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 技術開発そのものではなく、先端的な科学技術と社会とのかかわりについて問うもの ● 先端技術がもたらす変化に対し、ポジティブなものは活かし、ネガティブなものは克服し、人間のあり方を問うもの ● 新規性に溢れた発想で野心的に課題に取り組む若手研究者の育成、あるいは若手研究者らが議論する土壌をつくり実践していく先駆的な活動/場にかかわるもの。 <p>具体的な切り口として以下等を想定する。</p> <p>1. 中長期視点に立ち、先端的な科学技術による社会的影響を学術的・理論的に考察する研究。 情報技術の飛躍的進展に関して、これまでの科学技術と社会とのかかわりと比較して何がどう異なるのかをマクロな視点から歴史的に検証する研究や、文理を超えて分野横断的に探究するもの、既存の制度的な枠組み等の課題と変革の方向性について考察するものなど。</p> <p>2. 先端的な科学技術の具体的な利活用に関する研究。いわば実践的研究で、今まさに生起しつつある喫緊の課題に対処するもの。例えば、AI 等デジタル技術と教育の視点では、①デジタル技術に適応していく上で必要とされる資質増進に資する教育、②AI 等デジタル技術を適切に利活用するための教育、③AI 等デジタル技術を取り入れた教育実践、④AI 等デジタル技術ではなく人間にしかできない能力の育成といった四つの視点が想定される。</p> <p>3. 研究者・技術者のネットワークづくりに寄与する活動。先端的な科学技術と社会とのかかわりを的確に捉えるために、理系と文系が問題意識を共有し両者が融合した成果を得ることを目指すもの。とくに若手を中心に、文理の垣根を超えた国際的な交流・ネットワークづくりを促進するもの</p>	<p>【共同研究プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2名以上、代表者の年齢が助成開始時に45歳以下であること。 <p>ただし、若手を中心にさまざまな世代による協働プロジェクトを奨励します。その他、所属・経歴等は不問。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文系と理系、研究者と実践者など、分野・領域を架橋するプロジェクト and/or 国際的な研究・活動に資するプロジェクトであること。設定した課題に対して、必要且つ適切な広がりをもつ分野・領域横断的なチームを形成すること。 ● 書籍、映像、シンポジウム等、研究成果を広く社会にむけて発信するための計画を立て、助成期間中に達成できるよう取り組むこと。 <p>【個人研究プロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 助成開始時の年齢が40歳以下であること。所属・経歴等は不問。 ● 先端的な科学技術をめぐる諸課題に対し、若手研究者が独創的・野心的にアプローチする萌芽的研究プロジェクトであること。柔軟で新規性に溢れた発想に基づくプロジェクトを歓迎。(萌芽的/個人研究であることから)研究成果の発信/社会的還元への程度は問わないが、研究の社会的インパクトを意識し、個人の業績が主目的の企画内容ではないこと。共同研究等への展開が期待される将来性のあるプロジェクトであること。 <p>【個人管理・機関管理】</p>	-	11/30	web申請 (~15:00)	共同研究: 500~1,000 万円/件 個人研究: 100~200万 円/件	・共同: 4-7 件程度 ・個人: 3-5 件程度	2024/5/1~ 最長 3 年間 (登録時に 1 年間、2 年間、 3 年間のいづ れか選択)	https://www.toyota-found.or.jp/special/2023/advanced.html
9/22	M23334	サントリー文化財団	海外出版助成募集	<p>海外における日本理解を促進するために、以下の通り英語をはじめとする外国語への翻訳、編集、出版費を助成の対象とする。</p> <p>A. 日本語で書かれた優れた研究業績を国際的に発信するもの。 B. 日本について書かれた書籍で、海外における日本理解に資するもの</p> <p>* 以下は対象外: ①自然科学分野のもの ②過去に出版された翻訳書の改訳 ③過去に出版された出版物の再版 ④雑誌、観光案内、パンフレットの類 ⑤商業的に十分採算がとれると思われるもの ⑥信頼しうる出版社との出版契約がなされていないもの ⑦有償、無償にかかわらず、確実な配布計画を持たない出版物</p>	<p><対象図書> 抜粋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、人文学、社会科学の分野において日本語で書かれた優れた研究業績、あるいは日本について書かれたもので、助成を受けることによって翻訳・出版の道がひらかれる作品 ・日本語以外での出版であれば何語によるものでも構わない。 ・2024年4月から 2026年3月末日までの間に出版予定のもの。 ・信頼しうる出版社との取り決め・第三者の推薦等、質の高い翻訳および出版物であることの保証を求める <p>【個人管理】</p>	-	11/30	郵送及び e-mail提出 当日消印有効	①図書制作総 費用の1/2かつ ~100万円/件 ・英語翻訳出 版総費用の 2/3かつ~200 万円/件	7-10件程度	2024年4月~ 2026年3月末 に出版予定	https://www.suntory.co.jp/sfnd/publication/